新湊 放生津城下 さんぽ

多彩な歴史と文化が
時代を越えて重なる都市

城を核に都市の軌跡をたどる

企画・取材・発行
射水商工会議所 魅力発信プロジェクト
（事務局）射水商工会議所
〒934-0011 射水市本町 2-10-30
TEL：0766-84-5110

発行日
2021 年 3 月 25 日

引用・参考文献
「新湊市史」新湊市史編さん委員会
「しんみなとの歴史」新湊の歴史編さん委員会
「いみずの神社・寺院」射水地区広域事務組合
「放生津城跡を掘る」久々忠義／新湊市民文庫 II
「放生津物語」放生津小学校
「越中富山山野川湊の中世史」久保尚文／桂書房
「とやまの歴史 改訂版」富山県公文書館編／富山県
「太平記（二）」兵藤裕己 校注／岩波文庫
「足利義稙 戦国に生きた不屈の大将軍」山田康弘／戎光祥出版
「足利義政と東山文化」河合正治／吉川弘文館

協力
射水市、射水市教育委員会、取材にご協力いただいたみなさん

制作
株式会社 ワールドリー・デザイン

ミルフィーユのように重なる都市と文化の地層

放生津城跡（放生津小学校）　鎌倉時代には越中守護所が置かれ、室町～戦国時代にかけては、放生津城として、越中の政治の中枢を担った場所。廃城となってからは、田畑や加賀藩の御用蔵などに活用され、明治時代以降は、小学校の敷地となっています。今もグラウンドの下に、放生津城の遺構が残っています。（協力：射水市立放生津小学校）

多層な都市構造が生んだ、歴史と文化の独特な土壌

富山県射水市・新湊（放生津）地区。平安末期には、海の交易拠点として県内最古ともいわれる都市が既に形成され、鎌倉時代には交易・経済・人口の集積地に加え、「越中守護所」という政治の拠点も置かれ、まさに越中の中心都市となりました。戦国の世に入ると争乱の舞台ともなり、「太平記」にも放生津城の名が記されています。室町中期にはなんと！10代将軍・足利義材が滞在し政権まで樹立。約5年という限られた期間ではありましたが、当時最高の貴人が住み、国内政治の中心地となった地が、ここ放生津なのです。江戸時代初期に廃城となり政治の舞台から徐々に姿を消しますが、産業・商業のまちとしての威勢や存在感は増していきます。城跡は田畑や蔵屋敷として利用され、明治期からは小学校となって今に至ります。

お城＆武将から小学校＆児童までが、同じ土壌の上に時代を越えて営々と重なる不思議なまち、放生津。まるで城などなかったように時代に合わせた活動や街づくりをやってしまう大胆不敵な人々のルーツは深く重層的。見えない財産に支えられてこそ、今があるのです。

-放生津城のポイント-

①経済＆政治の中心。なんと幕府も！

平安時代末期から域外との交易や流通の拠点であった放生津。鎌倉時代には日本海交易の発展と数々の寺院の進出により、港湾都市としてさらに栄えます。そして守護所が整備され、経済に加えて政治の中心地に。さらに、京都の政変を避けてやって来た10代将軍・足利義材を受け入れたことから、日本の政治の中心である「幕府」がおかれるという珍しい事態に。この中心の舞台が放生津城なのです。

②文武両道の“キレもの”が城主に！

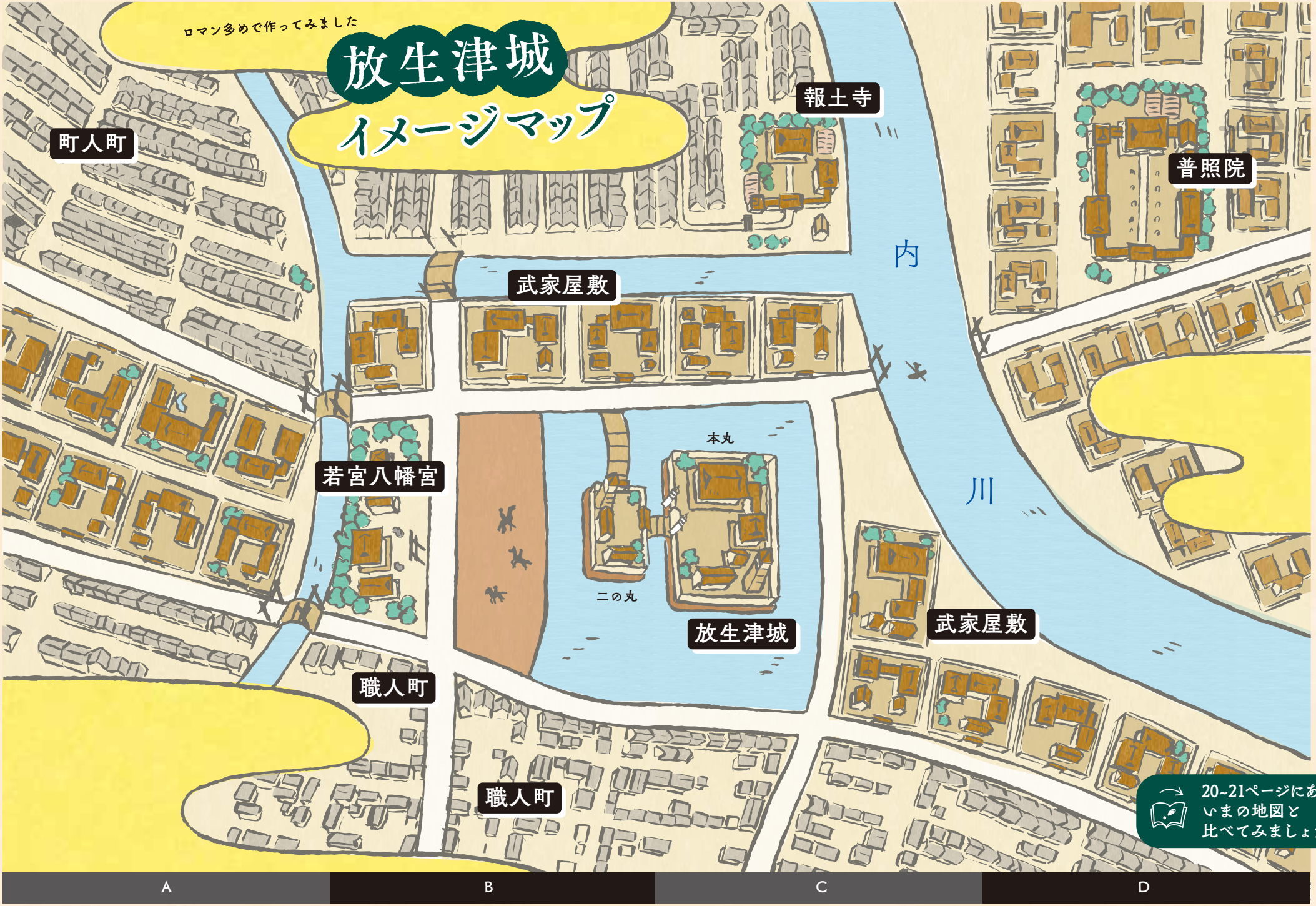
古くから港湾都市として越中経済の中核を担っていた放生津には、財をもつ有力町民が集中していました。また、鎌倉・室町時代は、浄土真宗や時宗といった仏教の新宗派が勢力を拡大していた時期でもありました。そんな場所で「守護」の役割を担うには、武力はもちろん、交渉やソロバンにも強く、文芸にも秀でた“文武両道のデキる武者”でないと務まらないはず！ 放生津城にはきっと、キレものの城主たちが集っていたに違いありません。

③結局は自治の都市に戻っていく

多種多様な人・ものが行き交い、自立心とアクの強い人々が集まり、町衆たちが力を持っていた放生津。神保氏の拠点が放生津城から富山城へと移り、政治拠点としての機能がなくなった後は、町衆の力で自治・商業都市として発展します。

④確実にその土壌に重なっている

こんなにすごい放生津城なのに、他のまちのように城跡や公園として残されていないのは、堀や土塁が土の下に埋まっているからです。また、「跡地」として保存せず、常にその時代に必要なものに作りかえられ、使われ続けてきたからでもあります。放生津城の遺構は、今も小学校の下に眠っています。かつて城だった場所は、元気な子どもたちの声が響く学び舎に。目に見えなくても、歴史と文化の重なる土壌が、私たちの足元にあるのです。



20~21ページにある
いまの地図と
比べてみましょう。

Illust: 小野絵美

※放生津城想像図（射水市新湊博物館提供）をもとに、ヒストリアチームでロマン多めに仕上げました。

次ページで詳しく

746 大伴家持が越中国司に就任

あゆの風
いたく吹くらし
奈呉の海人の
釣する小舟
漕ぎ隠る見ゆ
（大伴家持／万葉集4032）

当時越中国司であった大伴家持が、奈呉の浦（＝富山湾）で釣りをする海人を歌に詠んでいます。

751 源頼家歌合の歌に越中名所として「名子縄橋」が詠まれる

1053 北陸道勧農使として比企朝宗が派遣される

1183 越中守護所が放生津に置かれる

1184 放生津城築城

1185 放生津城落城

1290 神保氏が越中守護代に

1333 10代将軍足利義材が放生津に滞在（約5年間の「放生津幕府」を樹立）

1429 放生津城落城

1441 放生津城再建

1443 山崎長徳が最後の放生津城主に

1493 17世紀初頭には廃城

1498 古城跡で3000歩の開拓が始まる

1519 城跡内で畑作りが行われる

1520 放生津城土居がたち残る

1543 城跡内は畑として利用

1592 加賀藩が城跡内に米蔵を建てる

1615 堀跡を埋め立てる

この時総周り百三十間幅一間五分、深さ一間二分の二の丸堀を埋めると記録があります。

放生津、新湊には、矢野・朽木といった室町幕府奉公衆（＝将軍の直臣）と同じ名字の家があり、義材が放生津に来た際に同行して定住した可能性もあります。

放生津八幡宮をはじめ多くの木彫刻を残した矢野啓通の祖先も、室町幕府の奉公衆に由来するようです。

城跡は長い間、畑として利用されていましたが、1803年以降、加賀藩・前田家の御用蔵が建ち並ぶようになりました。

1697 新湊町立川東第三番小学校創立

1717 小学校は山王町に位置

1729 放生津尋常小学校設立

1761 放生津尋常小学校校舎新築

1803 二の丸尋常小学校新設

1807 放生津尋常高等小学校と改称

1873 新湊東部尋常高等小学校と改称

1879 新湊市立放生津小学校と改称

1902 新湊市立放生津幼稚園設置

1907 放生津小学校 新校舎入校式

1913

1925

1937

1951

1961

1988

1989

1991

1873年（明治6）に設立された新湊町立川東第三番小学校（今の放生津小学校の前身）は、専念寺の境内にありました。

1903 明治36年

第1回卒業生（明治36年3月撮影）

写真提供：射水市放生津小学校

創立当初の校舎は現在の山王町にあり、「白壁の学校」と言われました。

放生津城周辺の様子

746 751 1053 1183 1184 1185 1290 1333 1429 1441 1443 1493 1498 1519 1520 1543 1592 1615 1676 1697 1717 1729 1761 1803 1807 1873 1879 1902 1907 1913 1925 1937 1951 1961 1988 1989 1991

越中守護所 | 放生津城（越中守護所） | 放生津幕府 | 畑 | 米蔵・塩蔵 | 小学校

奈良時代 710~784 | 平安時代 794~1185 | 鎌倉時代 1185~1336 | 室町時代 1336~1573 | 安土桃山時代 1573~1603 | 江戸時代 1603~1868 | 明治 1868~1912 | 大正 1912~1926 | 昭和 1926~1989 | 平成 1989~2019

木曽義仲が六渡寺で陣を敷き、その後般若野へ向かう

俱利伽羅の合戦

俱利伽羅峠で木曽義仲軍（源氏軍）と平維盛率いる平家軍との間で起きた合戦。5万余騎を率いた木曽義仲軍は、俱利伽羅に向かう途中、六渡寺に宿営。翌10日には西へ進み、家臣と合流したそうです。

守山城の戦い

1519年（永正16）、越後の長尾為景が越中に侵攻した際に、神保慶宗は守山城に籠って対抗しました。

神保慶宗は、西日本海運に力を持っていた浄土真宗・興正寺へ接近し、越中西部の港や川沿いの真宗寺院を興正寺に所属させました。専念寺もそれらの寺のひとつです。

放生津城は平城で、戦時には守りにくいため、いざという時は二上山の上にある守山城へ立てこもって戦をしました。二上山麓の国泰寺は神保氏の保護を受けていました。

旅の僧が専念寺に、**神保慶宗**の菩提を弔い、傘松を植える。

1803年8月、高木の測量家・**石黒信由**が、城跡を測量して米蔵が作られました。この直前に、信由は放生津で**伊能忠敬**と出会っています。忠敬は、江戸時代、関東へ移った神保氏の子孫です。

1929 昭和4年

増設竣工記念（昭和4年11月撮影）

写真提供：射水市教育委員会

発掘調査

1. 1988月4月 旧グラウンド（今の新校舎の場所）を発掘
2. 1989月8月・11月 今のグラウンド北側を発掘
3. 1991月5月 今のグラウンド南側を発掘

写真提供：射水市放生津小学校

1908 明治41年

第6回卒業生（明治41年3月撮影）

現在の東町に位置していました。

写真提供：射水市放生津小学校

1951 昭和13年

昭和13年7月17日 校舎新築

現在は「旧校舎」と呼ばれる増改築前の校舎。

木曾義仲が近江国粟津で敗死。頼朝が北陸道勧農使として**比企朝宗**を派遣。

源頼朝が守護所設置

越中守護所は放生津に！

名越時有が越中国守護所として放生津城を築城

名越北条時有 ▸12ページ

桃井直常は越中国の守護として、庄ノ城、千代ヶ様城、布市城、津毛城を築き、越中支配の拠点とした。

桃井直常は、越中の有力国人衆の指示を得て、反幕軍事活動を続けた。幕府側は、直常鎮圧のために将軍家一族の**斯波家**から守護職を投入するも安定しなかった。桃井勢は1371年まで、越中長沢や五位荘で抵抗したが、ついに敗北し、没落した。

観応の擾乱

尊氏の執事高師直と尊氏の弟直義との間の対立が武力衝突に発展。尊氏と直義との抗争となる。**桃井直常**は直義派の有力武将として北陸から入京。

桃井直常 ▸17ページ

神保氏、放生津に居館

神保国宗 ▸15ページ

明応の政変

細川政元が起こした将軍の擁廃立事件。これによって**足利義材**は幽閉。島流しとなるところを、越中守護・**畠山政長**の重臣で守護代だった**神保長誠**を頼り、放生津へと下向することとなった。

足利義材 ▸10ページ

神保長誠 ▸14ページ

10代将軍足利義材が放生津に滞在

約5年間「放生津幕府」を樹立。

神保氏の拠点が富山城に移ったため、放生津城は政治的拠点の地位を失う。浜街道の要衝として神保・上杉・前田氏の一支城に。

山崎長徳 ▸13ページ

越後国守護代・長尾為景の攻撃で放生津城が落城

放生津城は17世紀初頭には廃城

魚津城の戦い

織田軍対上杉軍の北陸制圧をめぐる戦い。

佐々成政、前田利家 ▸16ページ

上杉謙信 ▸17ページ

上杉謙信が増山城を攻略

佐々成政が富山城に入城

1184 1185 1203 1221 1275? 1285 1290 1333 1336 1337 1344 1350 1351 1356 1360 1361 1362 1363 1366 1367 1368 1379 1380 1406 1408 1429 1433 1441 1443 1454 1455 1460 1491 1493 1497 1498 1501 1506 1517 1520 1543 1545 1560 1561 1571 1576 1578 1581 1582 1583 1585 1592 1603

越中守護（支配者）	名越北条公時、名越北条時有、吉見頼隆、普門（井上）俊清、桃井直常、桃井直常、普門（井上）俊清、細川頼和、斯波高経、斯波義将、桃井直信、斯波義将、畠山基国、畠山満則（満慶）、畠山満家、畠山持国、畠山持永、畠山義就（義夏）、畠山政長、畠山尚慶（尚順）、畠山稙長、上杉謙信、上杉景勝、佐々成政、前田利長
守護代（城主）	斯波義種、神保国宗、神保長誠、神保慶宗、神保長職、神保長住、山崎長徳

平安時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 安土桃山時代 | 江戸時代

比企能員の変

鎌倉幕府内部で起こった政変。2代将軍源頼家の外戚として権勢を握った比企能員とその一族が、北条時政の謀略によって滅ぼされた。これにより、北陸道守護職が**北条氏**に移る。

承久の乱

後鳥羽上皇が鎌倉幕府を打倒するため、執権の北条義時に対して討伐の兵を挙げ、敗れた兵乱。勝利側である義時の次男・北条朝時が率いた西上軍の鎮定を待って、北陸守護職の実権を掌握。以後、**朝時の子孫である名越家**が世襲で北陸の守護となる。（分割相伝）

元弘の乱

鎌倉幕府打倒を掲げる後醍醐天皇の勢力と、幕府及び北条高時を当主とする北条得宗家の勢力の間で行われた全国的な戦い。越中守護であった**名越北条時有**の最後の拠点となった放生津城は、反幕府側の御家人に囲まれて落城。時有も城で自害した。

嘉吉の乱

赤松満祐が室町幕府6代将軍足利義教を暗殺した事件。義教の重臣であった**畠山持永**は越中へ逃走したとも言われている。

細川政元が越後に向かう途中、放生津に立ち寄り、**神保長誠**がもてなした。

細川政元 ▸11ページ

越中守護**畠山尚慶**は、義材が滞在中の越中御座所に参じ、越中三守護代（遊佐、椎名、神保）の跡継ぎたちに、「慶」の字を与えた。

芦谷野の戦い

長尾能景が畠山尚順の要請を受けて越中に出兵するも、越中一向一揆と戦って敗死。長尾家は**神保慶宗**の非協力を怒り、長尾能景の子・為景が慶宗と長期にわたる（～1520年）抗争を繰り返すようになる。

神保慶宗 ▸15ページ

新庄の戦い

畠山尚順と長尾為景の逆襲を受けて**神保慶宗**は二上山城（守山城）に籠城。その後、椎名氏の協力を得たものの、新庄の戦いで敗れ、敗走途中に自害。

越中大乱

神保長職は神通川を越え、富山城を築き、椎名長常と国人衆を巻き込み、越中を二分する大戦を起こす。翌年、能登畠山氏の仲裁により大乱は終結。

神保長職 ▸15ページ

越中奪還戦

神保長住は、謙信急死を契機に織田軍の先鋒として越中へ侵攻し、富山城を攻略。一向一揆と結んで上杉氏に対抗した。

神保長住 ▸15ページ

あしかがよしき
足利義材

放生津に「幕府」を開いた！
室町幕府第10代将軍
Yoshiki Ashikaga

1466年生まれ。24歳で10代将軍に就任。1493年、前将軍・義尚の遺志を継ぎ、大名征伐で京都を留守にしていた義材。これに乗じて、細川政元が義材の従兄弟を新将軍に擁立しクーデターを起こします。戦いの末、細川氏に捕捉された義材は京都の龍安寺などに幽閉され、その後は島流しになるところでした。しかし、嵐の夜に脱出し、近江を経由し越中へ走ります。義材を救ったのは、畠山氏の重臣の一人で、当時放生津城主であった神保長誠。長誠の城近くの寺を義材の拠点とし、そこから約5年を放生津で過ごすとともに、政権（「放生津幕府」）を樹立しました。当時27歳の義材は、逃亡中とはいえ最高の貴人であり、北陸の大名たちが続々と参礼し、忠誠を誓いました。放生津での滞在期間中、義材のもとを京都の歌人らが頻繁に訪ね、歌会も多く催されました。義材は、放生津界隈の文芸の土壌を確実に育み、越中の芸術・文化の振興・発展にも大きく貢献しました。その後、越前、中国地方を転々とするも、機を逃さず将軍に返り咲きました。しかし、重臣と対立し都を出奔。波乱万丈の人生を送りました。

放生津城の名残を見つけよう

放生津橋（ほうじょうづばし）

MAP C

義材の騎馬像と座像のブロンズ像がある橋。「放生津幕府」の説明もあるので、歴史探訪の際には必ず抑えておきたい場所です。

石丸光正寺（いしまるこうしょうじ）

義材が滞在し一時は将軍御所だったといわれているお寺。立派な屋根の本堂は、木造としてはこの付近で最大のもの。

二の丸橋（にのまるばし）

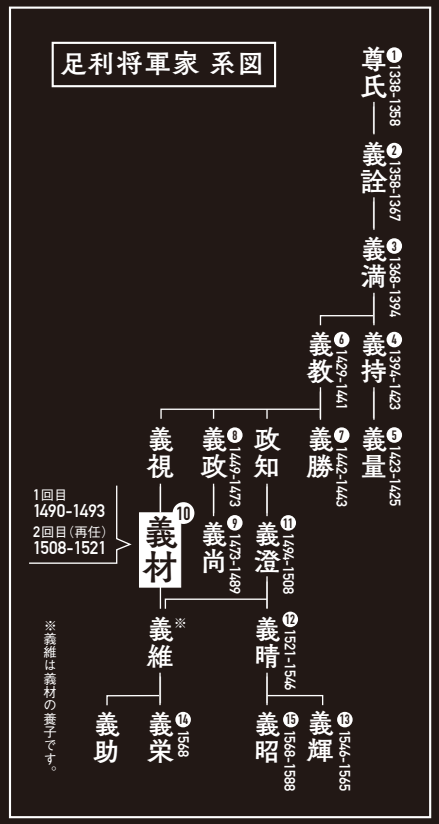
MAP C

内川にかかる橋。放生津城の二の丸にちなんで名付けられました。ありし日の城を想起させるデザインは放生津小学校の児童が考案。

義材年表

1466年	義視の長男として誕生
1487年	元服し「義材」と名乗る（21歳）
1490年	第十代将軍となる（24歳）
1493年	「明応の政変」が起こる 放生津に移る（27歳）
1494年	京都奪還の旗揚げ（28歳）
1497年	神保長誠が家臣を京都に派遣し、 細川氏との和平実現を図る（31歳）
1498年	密かに越中を去り越前へ 「義尹」と改名する（32歳）
1499年	京都へ兵を揚げるも失敗 周防国に移る（33歳）
1508年	大内義興・細川高国らと京都に入城 征夷大将軍に復位（42歳）
1513年	「義稙」に改名（48歳）
1521年	細川高国と対立して京都を出る 堺→淡路→阿波国に下る（55歳）
1523年	阿波国で死去（57歳）

足利将軍家 系図



義材 ゆかりの人物

飯尾宗祇（いのおそうぎ）

諸国を巡り歩いた連歌師

かの芭蕉も影響を受けたという連歌界の第一人者。越中には9回立ち寄り歌を残しており、義材の滞在中にも放生津を訪れています。

神保長誠（じんぼながのぶ）

義材を放生津へと迎えた

義材を放生津へ迎えるきっかけとなった人物。畠山政長の重臣のひとりで、放生津城主。軍事力・政治力の優れた地元の武将でした。

足利義視（あしかがよしみ）

義材の父。今出川公方とも

義材の父。兄である8代将軍義政の後継者となるも、義尚が生まれて継嗣争いが起き、応仁の乱を誘発。戦国時代のきっかけとなった人物です。

細川政元（ほそかわまさもと）

義材へクーデターを起した

義材を京都から追い出した人物。クーデターの2年前の1491年、越後への途中放生津に立ち寄る際、神保長誠が歓待したという記録が。

名越北条時有（なごえほうじょうときあり）

悲劇の最期をとげた
放生津城主
Tokiari Hojo

1185年、源頼朝によって軍事・警察・御家人統率のための守護所が設置されました。越中守護所は放生津に置かれ、当初は源氏の有力御家人・比企氏が守護を務めていましたが、北条氏の勢力が増し、名越氏がその任につくようになりました。1290年、時有が越中国守護所として放生津城を築城。1333年には、後醍醐天皇を中心とする倒幕運動が起き、時有は反幕府軍に対抗すべく、射水郡二塚に幽閉されていた後醍醐天皇の恒性皇子を殺害。越中・能登の御家人らを招集します。しかし、1万余騎が反乱を起こし、時有のいる放生津城（越中守護所）を取り囲みます。万策尽きた時有は、妻子らを舟に乗せ奈呉の浦（富山湾）に入水させた後、城に火を放ち約80名の家臣とともに切腹、自害しました。この様子は、『太平記』や謡曲「時有」にも悲劇のテーマとして取り上げられています。

山崎長徳（やまざきながのり）

様々な名将に仕え
放生津城も治めた
Nganori Yamazaki

1552年生まれ。朝倉氏が織田信長によって滅ぼされると明智光秀に仕え、1582年の本能寺の変にも参加。ここで重傷を追った長徳の手を取り、光秀は「今日一番の功に対し越前国を授ける」と約束したそうです。傷が深く参戦できなかった山崎の戦いで光秀が死去すると、越前の柴田勝家に仕え、勝家が死去すると前田利家、次いで前田利長に仕えました。様々な名将のもとで武功を挙げた長徳は、最後の城主として放生津城を治めました。1600年の関ヶ原の戦いでは、加賀の山口宗永・山口修弘親子を討ち取り、利長から1万4,000石の所領を与えられました。1614年からの大坂の陣には、冬・夏のどちらにも参戦。前田家の重臣として活躍しました。長徳の娘・亀は、放生津城で男子（後の加賀藩重臣・奥村栄政）を出産しており、亀の墓は長朔寺にあります。

放生津八幡宮（ほうじょうづはちまんぐう）　東町

Hojozu Hachimangu Shrine

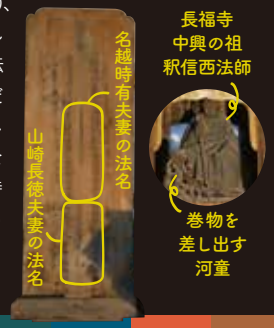
746年、越中の国司として赴任した大伴家持が、奈呉の浦（現在の富山湾）の情景を愛し、豊前国宇佐八幡神を勧請し奈呉八幡宮と称したのが起こり。創建から永々と伝えられる「放生会」は、毎年10月2日に開催されており、放生津の地名の由来のお祭りです。築山神事、曳山神事など、地域の歴史・文化の中核を担っており、地元民から広く信仰を集めています。

「放生会」では、本殿で鳥、内川で魚が放されます。

長福寺（ちょうふくじ）　高岡市

Chofukuji Temple

創建は1000年余り前。明応年間（1492〜1501）、門前を流れる牧野川に棲む河童を助けたお礼として、河童から「明応の秘法」という薬の製法を伝授されたという言い伝えがあり、これにちなんだ河童の木像も拝観できます。「あやまちの寺」として親しまれ、この地で500年以上、人々のけがを治療してきました。放生津城の初代城主・名越時有夫妻と、最後の城主・山崎長徳夫妻を顕彰する位牌が残っています。



長朔寺（ちょうさくじ）　MAP B あ　立町

Chosakuji Temple

1591年、放生津城主・山崎長鏡の娘、亀の菩提寺として、旧寺を再興してできた禅宗のお寺。家屋の密集する放生津では火事が多かったことから、火伏せの神様である秋葉三尺坊が祀られています。また、地元の漁民義人・佐賀野屋久右衛門と四歩市屋四郎兵衛、手助けした武士の位牌も安置されており、現在も漁業者たちの大切な拠り所となっています。

山崎長徳の娘、亀のお墓

築山

曳山祭りの翌日に行われる放生津八幡宮の秋季例大祭の本祭。築山と呼ばれる仮設の舞台を作り、神々の姿の人形5体（主神＝姥神、四天王＝持国天・増長天・広目天・多聞天）と、客人（飾人形）として歴史上の物語に因んだ人形2〜5体を祀る行事です。客人のテーマは毎年、氏子総代らが話し合って決め、数ヶ月かけて準備をします。令和2年の客人のテーマは、長徳の娘・亀が放生津城内で男児を出産した場面を表現しました。

2 神保長誠（じんぼながのぶ）

足利義材を放生津へと迎えた人物

Naganobu Jinbo Jinbo II

足利義材の将軍就任を後押しした畠山政長に臣従し、越中神保氏の最盛期を築いた武将。1467年、長誠が畠山政長に上御霊神社での挙兵を勧めたことにより応仁の乱が勃発。長誠は各地で奮戦し、上杉定正にその武勇を激賞されるなど、目覚しい活躍をします。その後越中へ戻り、倉垣荘など寺社本所領を押領して勢力の拡大に努めました。1493年、細川政元が義材に対して起こしたクーデターで敗北を喫した政長は自害。足利義材は将軍の座を廃され、幽閉されます。島へ流される直前、直臣たちの手引きで脱出した義材は、支援者であった政長の領国、越中へ下向し、長誠を頼りました。長誠は正光寺を改装して将軍御所とし、室町幕府は京都と越中に分裂することとなりました。長誠は、義材の宿敵・細川勢の越中侵攻をたびたび撃退して軍事力を誇示する一方、家臣に多額の費用（数千貫文≒今の数億円）を持たせて京都に送り、細川氏との和解と義材の将軍復帰工作にも尽力しました。しかし、細川氏の武力征伐を望む義材は、越前の朝倉氏の元へ。長誠に引き止められることを懸念し、近臣だけを連れて密かに越中を後にしました。

ちなみに長誠は、書状のサインにハンコを使った戦国武将のはしりでもあります。

Historia 歴史解説　越中守護と守護代

「越中守護」は足利一門の畠山氏が務めていましたが、畠山家は将軍を支える「管領」となることも多く、在京する必要があったため、実際の越中支配は「守護代」に任せていました。畠山持国の時に、遊佐氏（砺波郡）・神保氏（射水郡・婦負郡）・椎名氏（新川郡）の3氏の守護代を置きました。

越中守護代 神保家 系図

国久……慶久

❶1443-1454 国宗 ── ❷?-1501 長誠 ── ❸1501-1520 慶宗 ── ❹1543-1571 長職 ── ❺1571-1583 長住

慶宗 ── 慶明

（長城 長国）

※西暦は活動期間

1 神保国宗（じんぼくにむね）

Jinbo I Kunimune Jinbo

射水・婦負郡の支配の基盤をつくった

長誠の父。神保氏は、越中守護である畠山氏の家臣として永享年間（1429〜41）に放生津入りしたようです。1443年、射水郡・婦負郡の守護代としての活動が初見されます。以後5代に渡り、神保氏が越中支配の実権を握ります。残る砺波郡は遊佐氏、新川郡は椎名氏が守護代に就きました。持国の後継者争いでは、持国の甥である畠山弥三郎（政久）を推すも1454年に謀殺。これにより放生津城は一度陥落します。

3 神保慶宗（じんぼよしむね）

激動の時代に放生津を治めた

Yoshimune Jinbo Jinbo III

長誠の後継者。1501年の父の死後、神保家当主に。1506年、突如侵入した加賀一向一揆への対抗策として越後守護代・長尾能景へ協力を依頼。来援した能景とともに一揆勢を撃破するも、続く戦いで能景が敗北、討ち死にします。これを慶宗の裏切りと見た長尾家と宿敵関係に陥り、主君である越中守護の畠山氏と長尾氏の連合征伐軍を出されるはめに。慶宗は二上山城（守山城）で応戦するも、1520年、新庄の戦いで長尾勢に敗北。敗走中に自害しました。この前年に、時宗総本山・清浄光寺の放生津への移転が決まっていました（24世遊行上人古跡不外が放生津出身のため）が、慶宗の死で取りやめになりました。

4 神保長職（じんぼながもと）

神保家支配を越中全域に。神保家中興の祖

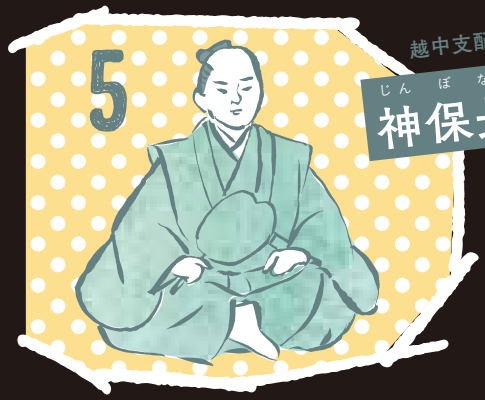
Nagamoto Jinbo Jinbo IV

慶宗の子。没落していた神保家の再興に努めた人物。長職は1543年頃、神通川を越えて新川郡に富山城を築き、椎名氏と越中を二分する大乱を引き起こしました。翌年、能登畠山氏の仲裁により大乱は終結し、長職は射水・婦負郡の守護代に返り咲きます。神保家を越中最大の勢力に築き上げましたが、時代は群雄割拠の戦乱の世。一揆衆や武将らから度々の攻撃を受け、1560年に長尾景虎（上杉謙信）に攻められ、富山城から追われました。晩年は失意のなか出家し、子の長住に家督を譲ってまもなく他界。

5 神保長住（じんぼながずみ）

越中支配を奪還。活発に軍事を行った

Jinbo V Nagazumi Jinbo



父・長職から家督を継いだものの、能登畠山氏に身を寄せていた時期があり、能登も謙信に征服されたため京都に上って織田信長に仕えたようです。1578年、謙信急死を契機に織田軍の先鋒として越中へ侵攻し、増山城を攻略。続く戦いでも上杉・椎名勢に大勝し、津毛城、富山城を奪還。その後新庄城、松倉城と東進し、活発な軍事行動を行いました。1581年に佐々成政が越中へ入国の後は、その指揮下に入り、八幡宮・神明社・山王社・気比社門前の市場に保護を加えました。しかし、翌年、旧臣に富山城を急襲され、国外へ追放。その後、行方不明となりました。

本能寺の変の直後に、放生津で饗宴！

佐々成政（さっさ なりまさ） & 前田利家（まえだ としいえ）

Narimasa Sassa & Toshiie Maeda

佐々成政と前田利家は、若い頃から織田信長のもとで功を競い合った、よきライバルでした。1582年、織田信長軍と上杉景勝軍との「魚津城の戦い」に参戦していた成政と利家は、魚津城を攻め落とした直後に本能寺の変の知らせを受けました。「お館様の一大事」に、成政は富山城へ、利家は七尾城へ撤退を余儀なくされました。利家が船で七尾へ向かう途中、大風のためやむなく古明神浜に着岸。天候で足止めされていることを知った成政が、支配下にある放生津城で利家を「おふるまい申し上げ」たという記録が残っています。慌ただしい中での送別会で仲の深まった二人ですが、豊臣秀吉が他の武将たちに先んじて京都入りし、明智光秀を打ち取り天下を取って以降は、一転して反目しあう仲になってしまいました。

本能寺の変

1582年、京都の本能寺に滞在中の織田信長の寝込みを家臣・明智光秀が突如襲撃。包囲されたこと悟った信長は、寺に火を放ち、自害しました。舞台となった**本能寺は**、大門地区・島に生まれた日隆上人が創建した、**射水市ゆかりの名刹**です。

専念寺（せんねんじ） 新町

Sennenji Temple

黒松と赤松の突然変異「傘松」が圧巻の寺。越中守護代・神保慶宗が帰依した際に植えられたといわれています。傘状に広がり続けている珍しい姿は一見の価値あり。文明16年（1484）、浄土真宗寺院として寺号を公称。海岸浸食等の影響で1717年に現在地へ移転しました。1474年作の銅鐘は、作者の銘のあるものとしては県内最古！この音は、除夜の鐘で聞けます（県指定文化財）。

かつて立山全山に時を告げた鐘は廃仏毀釈で新湊へ…

西福寺（さいふくじ） MAP Cう 荒屋町

Saifukuji Temple

古くから「荒屋のお不動さん」として親しまれている寺。室町時代の創建と言われており、越中真言宗の古刹として栄えましたが、度重なる戦乱や災禍から衰退していたものを、安政年間（1854～1860）に宮城県仙台市にあった西福寺を遷座して、曹洞宗の寺院として今に至ります。古くから放生津周辺が栄えていた証ともいえる石塔が、境内に残っています。

室町～戦国時代の放生津城周辺にあったと思われる石塔

桃井直常（ももの いただつね）

Tadatsune Momonoi

越中に数々の城を築城した強き武将！

桃井一族は1333年に新田義貞の鎌倉攻略戦に従軍するも、武家方と宮方に分裂したまま南北朝動乱期を迎えました。直常は、足利氏の家臣で猛将として名を馳せた人物。1338年に若狭守護、1340年に伊賀守護、1344年に越中守護となりました。後に、幕府の内紛から反幕府の姿勢を貫き、越中を拠点に戦いました。

上杉謙信（うえすぎ けんしん）

Kenshin Uesugi

放生津を商都として再び輝かせた

神保氏は、越後の長尾氏（上杉氏）と、たびたび越中で争い、1576年には放生津も上杉謙信の支配下となりました。1581年、上杉氏は放生津を自由貿易の場とする「十楽市」に指定し、上杉氏の越中経済の支配拠点とすることを宣言しました。これにより、復興を促すねらいもあったようです。

曼陀羅寺（まんだらじ） MAP Bい 立町

Mandaraji Temple

奈呉の浦（富山湾）から法華経曼陀羅22幅を拾い上げられたのが始まりと伝わりますが、足利義材の将軍復帰運動に際して神保長誠が寄進したという説も。境内には加賀藩主・前田利長の重病を祈祷快癒させたことを讃えて寄進された天満宮があります。

十楽市

特権を持つ旧来の業者を排し、**自由な商取引を認める政策**でしたが、**旧来からの町人自治を牽制・破壊**する側面もありました。

放生津城の名残のある町名

神保寺町（じんぼうじまち） MAP D

神保氏にゆかりの寺があったと伝えられている地域です。

法土寺町（ほうどじまち） MAP C

神保氏が保護した時宗の寺院「報土寺」が近くにあったことに因んだ地名です。

倉屋敷町（くらやしきまち） MAP C

江戸時代、放生津城跡には加賀藩の米蔵や塩蔵など、蔵が立ち並ぶエリアでした。

放生津城 周辺から発掘されたものたち

放生津城の跡地は、畑や水田となり、その後は加賀藩の蔵屋敷が建てられ、明治以降には小学校として利用されてきました。放生津小学校の建て替えに伴い行われた3回の発掘調査の結果、弥生時代の土器や江戸時代の食器、最近の学校の屋根瓦なども土の中から出てきました。部分的な発掘でしたが、中国や国内各地の焼き物、銅銭、金属製品、漆器や曲げ物などの木製品、五輪塔や砥石、るつぼや鉄滓などの鍛治関連品、桃・瓜・くるみなどの種子、焼けた骨など、城として機能していた証がたくさん出土しました。ここでは、鎌倉〜室町時代、そして江戸初期までの主な出土品をご紹介。これらは、あの将軍が飲んだお茶碗や名だたる武将たちが放生津に来た時に使った暖房器具のかけらかもしれませんし、放生津城主たちの手元を照らした照明器具だったかもしれません。ロマンを感じませんか？

令和 2019〜

平成 1989〜2019

昭和 1926〜1989

大正 1912〜1926

明治 1868〜1912

江戸時代 1603〜1868

安土桃山時代 1573〜1603

室町時代 1336〜1573

鎌倉時代 1185〜1336

平安時代 794〜1185

奈良時代 710〜784

るつぼ、鉄滓

るつぼは、銅や鉄、鉛などの金属を溶かす容器。金属を溶かす作業の時に出る鉄滓も出土していることから、城内で鍛治が行われていたことがわかります。放生津には、室町時代に源才誠吉、藤原誠家という鋳物師がいました。

2 美濃焼

岐阜県で作られた焼き物。椀、皿、鉢、瓶、つぼなどの小物が多く、食事に用いたり神仏のお供えを入れたりしました。

1596年、京都の伏見城築城のため前田利長が、増山、中田、放生津などの檜物師を京都へ派遣したという記録が残っています。

3 白磁
4 青磁

中国製の焼き物。透明感のある青色や緑色の釉薬がかかっています。国内のものよりも上質で高級とされました。椀や皿が多く出土しています。

曲げ物

ヒノキの薄板を用いた容器で、桶やひしゃくが作られます。材料の薄板や板を止めるのに使う桜の皮も出土しています。城内には、曲げ物を作る檜物師がいたようです。

5 天目茶碗

お茶を飲むための器として中国から輸入された茶碗。鎌倉時代の終わりには、国内でも似せて作られるようになりました。放生津城主がこれでお茶を飲んでいたかもしれません。

1466年に神保長誠が、立山の芦峅寺のお堂を造るために、10貫文（1万枚）を寄進した記録が残っています。

1 中国銭

中国で作られた銅銭が日本に輸入されたのは南北朝時代〜室町時代にかけての間。銭は普通、100枚を紐で結んで扱われました。

6 火鉢

灰を入れて炭火を置き、暖をとる道具。口のところに模様がスタンプされています。これは能登の珠洲焼です。室町時代には、奈良県の興福寺に火鉢座という職人集団がいて、そこで盛んに製造されていました。

五輪塔

空輪、風輪、火輪、水輪、地輪の5つの部分からなる石造物。墓塔や供養塔として、中世に流行りました。

9 灯明皿（土師質小皿）

古墳〜平安時代に用いられた素焼きの焼き物・土師器に似ていることから名付けられました。口が煤けて黒くなったものがほとんどで、えごまなどの油を燃やして、明かりをとる灯明皿として使われていたようです。夜でも明かりを必要とした城ならではの出土遺物です。

7 越前焼
8 珠洲焼

越前焼は福井県、珠洲焼は能登の珠洲周辺で作られた焼き物。かめ、壺、すり鉢が主に出土しています。室町の終わり頃までは珠洲焼が圧倒的に多く出土し、戦国時代から江戸時代にかけては越前焼が多く出土します。

釣具、製塩土器

放生津周辺では、漁網に取り付けたおもり（土錘）や、塩を作るための土器が発見されています。

想像しながら歩いてみよう！

放生津城下さんぽMAP

歴史ヒストリアチーム、とっておき！

もっと文化を感じる方法

1 地名は歴史の記憶装置!!

お堀や石垣などは残っていませんが、鎌倉・室町の頃にあった「報土寺」や神保家ゆかりの寺（普照院）があった場所に、「法土寺」「神保寺」という町名が残っています。江戸時代には加賀藩の米蔵や塩蔵が建ち並んでいたことから「倉屋敷」という地名があったり、近年まで「神楽川」だった川筋が「かぐら通り」になっていたり。地名の由来を調べてみると、いろんな発見がありますよ。

2 寺社は歴史・文化のタイムカプセル！

放生津地域にある寺院や神社の数の多さや密集度の高さは、古くから人口と産業の集積地だった証。歴代の放生津城主ゆかりの場所やエピソードも枚挙にいとまがありません。特に「専念寺」の傘松は、当時の記憶を留めつつ今も驚異的な生命力で枝葉を広げ続け、不思議な存在感を放っています。石塔や位牌などは、あらかじめ連絡してから拝観するようにしましょう。

3 都市構造もミルフィーユ！

群雄割拠の戦国時代、城は戦いの舞台として捉えられがち。しかし、すでに交易で栄えていた放生津の城の場合は、交通の要衝を押さえ、他地域への足がかり拠点という意味が大きかったはず。様々な人が行き交う、自治力の高い放生津は、町衆の自由な動きと城主による大胆な政治とが共鳴し合うような関係で、都市の構造もミルフィーユのように多層だったのではないでしょうか。

さらに深く楽しむために…

地元の郷土史家に聞こう

戦国時代の城を研究する高岡さんと、放生津城跡の発掘調査をされた久々さんにお話を伺いました。海洋都市として、古くから物流や経済の拠点として栄えた放生津が、さらに政治の中心地としても存在感を増した鎌倉〜室町時代。この黄金期の証は、今は地面の下に埋まっていて簡単には見えませんが、私たちの暮らしは確実に、歴史の蓄積の上にあるのです。

多い時は大小400もの城館が！中世の城は、政治拠点であり現在の都市の礎です

とやま歴史的環境づくり研究会 代表
高岡 徹さん

埋蔵文化財からわかる歴史。土の中に眠る地域の宝に思いをはせてみて！

射水市観光ボランティア連絡協議会 会長
久々 忠義さん

新湊歴史ヒストリアチーム

リーダーの一枚＆一言

しんみなと歴史ヒストリアプロジェクトリーダー
吉久 磨

創立から148年の歴史がある放生津小学校は校章のマークが向い鳩になっていることから、その児童を通称「はとっ子」と呼びます。私も昔、はとっ子でしたが、小学校のある場所が放生津城の跡地である以外は何も知らずに過ごしてきました。しかし新湊歴史ヒストリアに関わり、「放生津城ってどんな城？」「誰が城主なの？」と、地元に住む者としてもっとこの城の事を知りたいという思いに駆られ今回に至りました。この企画にあたり放生津城の役割や歴史を知る事ができ、私が6年間学んだ城跡の学び舎を今更ながら誇りに思うと同時に、はとっ子や市内外の人にも放生津城の存在を何らかの形で知って頂く機会が多くなればと思います。
折しも本年は、新湊町誕生150周年。この冊子に留まらず、放生津城が射水市の貴重な財産である事を多くの人に認知して頂き、放生津城の歴史の記憶が風化しないよう、切に願っています。

城跡の桜

お城には桜がよく似合うと言いますが、放生津城が現存していたら桜の名所になっていたでしょうか。古くから放生津のまちは海・陸の交通の要所で栄え、放生津城は政治を司る城として誕生しています。交通の要所であるが故にしばしば戦にも巻き込まれ、太平記に出てくるような落城もしています。室町期には将軍を向かえ入れ政治文化の中心として大いに華やぎ栄えた時代もあり、戦国・桃山期には上杉家や前田家の武将が城主に替わるなど浮き沈みを繰り返した歴史があります。そんな歴史を辿ってみると、まるで満開の桜が散り、また美しく咲き誇る桜のようにさえ思えてくるのは私だけでしょうか。本年は、そんな放生津城の歴史に思いを馳せながら城跡に咲く満開の桜を愛でたいと思います。
内川の桜はもちろん放生津小学校の北側にある城跡の桜も、ぜひ見に来てください。お待ちしております。

「放生津が日本の中心やったがいぜ！」と初めて知り、大変驚いた第1回制作会議。取材や制作をする中で町のいたるところに放生津城が要所である所以を感じました。フランス語で「千枚の葉」を意味するミルフィーユ。多くの偉人・出来事・社会など、千年以上の歴史が何層にも折り重なった結果、正に放生津文化のミルフィーユが形成されています。皆さんの足元に落ちている小石もミルフィーユの一部かもしれませんね。

事務局 竹内 健

小学生の頃、郷土史の学習で放生津城について紙芝居を作っていました。友人と一緒にロマン多めに脚色し、ストーリーを作ったことを覚えています。今回改めて調査するなかで、当時は知ることのできなかったさまざまな歴史上の偉人が放生津を訪れ文化にも影響を与えていることを知り、ますます歴史ある新湊・放生津に誇りを感じました。ぜひこの冊子を手に、まちを歩き、歴史のロマンに思いを馳せていただければと思います。

事務局 磯部 和佳奈

放生津城跡（放生津小学校グラウンド）は、土山によって囲まれています。現地見学会の講師として案内すると、聴講者のほとんどがこの土山に登り、感慨深げに「これが城の土塁か」と言われます。土塁とは、城の周りに作る土の塀のこと。「皆さん、残念ながら、この土山はグラウンドの砂飛散を防ぐために築いたものです。」と毎回困惑して説明しています。

協力
松山 充宏

射水市 新湊博物館
定休日 火曜、祝日の翌日
所在地 射水市鏡宮299 TEL 0766-83-0800
開館時間 9:00〜17:00（入館〜16:30）

あとがき 城より前に、まちがあったから

一時期、「将軍」が住んでいたなんて、今想像してもかなり異例ですよね。確実に越中の中心で、都から高貴な有力者らがやってきたであろう放生津城。土に埋まって認知度も低いけれど、あまり残念に感じないのは、**限られた歴史の一場面を特別扱いで“保存”し後の用途をしばるのではなく、歴史はそのままに土壌を“上書き”し使い続ける放生津（新湊）の人々のしなやかさが好きだから。**長きに渡り都市であり続けた歴史から見れば、「城」だって一時的な土地利用法ですね。

デザイン・編集：明石あおい